

## ◎本会の動き◎

### ☆女性技術者ネットワーク 報告☆ 2024年9月12日

男女共同参画委員会では、9月12日、北海道大学での第55回秋季大会において、女性技術者・研究者・学生の交流を目的とした講演会「女性技術者ネットワーク」をハイブリッド形式にて開催しました。総勢53名の方にご参加いただき、盛況な会となりました。

招待講演では、はじめに室蘭工業大学の高瀬 舞 先生から「光機能性材料の開発とあたらしい働き方の探索」と題してご講演いただきました。博士前期課程、後期課程、教員になってからの研究とライフイベントを交互にご紹介いただきました。会場の北海道大学は高瀬先生の母校で、その博士前期で分光計測技術、後期課程では光反応と研究分野を着実に広げながら、両課程のほぼ節目ごとに家族が増えていく経験についてお話しいただきました。とすれば自身やパートナーの未来に対して慎重になり過ぎるきらいがある昨今、自身の学業とそれ以外の暮らしを満喫されたことが伝わってきました。印象的だったのは、当時学生だった高瀬先生がライフイベントに直面した際に、指導教員が「(学位も出産・育児も)なんとかなるよ!」と包み込むように後押しされたとのエピソードでした。理解ある上司に恵まれたことが様々な局面を乗り切る大きな力になっていると感じました。その後、二人のお子さんの成長とともに光触媒・光機能材料に関する研究を推し進め、2015年に北海道大学触媒研究所から室蘭工業大学MONOづくりみらい機構(伊達市)に異動されました。異動先では、大学における研究活動はもちろん、伊達市大滝区に「おおたき てらこや」の開設・運営、地元バトミントン指導員と言った地域活動にも取り組まれているとのことでした。「新しい働き方」を模索することの楽しさ、やりがい伝わってくるお話でした。講演の終盤、お子さんとの関係性について触れられ、お子さんにおいて自身がどういう存在であるべきか、さらに「努力」とはどうあるべきかについてお話しされました。講演後にフロアからの質問で「研究者・母としての原動力」や「研究者・母として働くために必要なもの」、「おおたき てらこやの資金」などについて忌憚ない質問がありました。高瀬先生のキャ

ラクターもあり、さらに議論が広がる楽しい講演となりました。

次に、本委員会副委員長で産業技術総合研究所の吉宗美紀先生より「化学工学会における男女共同参画の現状と課題」と題してご講演いただきました。本講演では一般社団法人男女共同参画学協会連絡会の第5回大規模アンケート(科学技術系専門職の男女共同参画実態調査)の結果について、化学工学会と他の学協会のアンケート結果を比較しながら、男女共同参画の現状を報告頂きました。本学会では女性会員の比率が生物学・化学・農学系学会の中で低く、大学の女性上位職の割合も低いとのことでした。また、分野によらず男女の収入格差はあり、女性の部下の数および開発費も男性より明らかに少ないとのことでした。さらに家族構成に関する調査より、男性のパートナーは専業主婦の割合が高いのに対し、女性のパートナーは研究職であることが多く、女性のこどもの数も平均一人以下であること等、説明頂きました。これは女性が仕事と家事・育児を両立することの大変さを反映しており、今後、女性の管理職への登用が増えていく上で、女性に対する周囲の意識改革(女性研究者・技術者の置かれている状況の理解)が不可欠であると感じました。最後に、女性管理職のすそ野を広げる意味でも、女子中高生の教育支援も不可欠であるとの意見も述べられました。

講演後にはフロアから、女性の管理職への登用が進むにつれ、シングル女性に負担がかかり過ぎるきらいがないか、との指摘がありました。女性研究者・技術者にも「シングル・子なし・子あり・子あり/介護あり」など、いろんな状況の方がおられるわけで、いずれの状況の女性にも目を向けることがダイバーシティ推進には大切だと考えられます。

今回の講演会では、吉宗副委員長のご講演は、女性研究者・技術者として「働くこと」の課題(しかも、遅々として解決されない)を提示され、高瀬先生の講演が、それに対する一つのアンサーであったように感じました。講演の順番は逆でしたが、「働くこと」に関して一つのストーリーを感じられる会になったと思いました。

男女共同参画委員会では、2024年12月にもハイブリッド形式(化学工学会事務局/オンライン)にて女性技術者ネットワークの開催を予定しています。メルマガ等により開催内容をお知らせ致しますので、ぜひご参加願います。

(今村維克(岡山大学)・三谷 誠(化学工学会))



講演者の高瀬先生



講演者の吉宗副委員長



座長の山内先生



現地講演会場の様子